

公益社団法人 第11回理事会・第7回社員総会 議決

平成26年度

事業報告書

平成26年4月1日から

平成27年3月31日まで

公益社団法人 北之台雅楽アンサンブル

【基本方針】

- (1) 公益目的事業Ⅰ—国内雅楽演奏会等の開催
- (2) 公益目的事業Ⅱ—海外雅楽公演等の開催
- (3) 公益目的事業Ⅲ—教育機関等における雅楽紹介
- (4) 管理・広報部門の充実（法人活動）

【具体的事業】

1. 公益目的事業Ⅰ—国内雅楽演奏会等の開催

① 雅楽に関する講演会

- a. 事業名称：第四回「雅楽と国際文化交流」
- b. 事業の趣旨：本企画は、国の内外の各界の有識者を招聘し、日本文化を中心に多岐に渉るテーマについてご講演をいただき、国際文化交流推進を目的としている。今回は、海外における日本語教育において見識の高い米国プリンストン大学・牧野成一名誉教授をお招きし、日米文化交流に寄与させていただきたい。加えて、十二音会の諸先生を招聘し、千数百年に渉る伝統保存文化である雅楽の素晴らしさを多くの方々に紹介させていただく。
- c. 日時：平成26年7月21日（月）15時～18時
- d. 場所：紀尾井小ホール（東京、四谷）
- e. 参加者数：210名
- f. 内容：講演と雅楽演奏
- g. 講師：牧野成一教授（米国プリンストン大学名誉教授）
- h. 公演テーマ：「ことばは音楽とどう関わるか」
- i. 雅楽演奏：管絃と舞楽（十二音会 楽師12名）
- j. 演目：管絃「平調音取・越殿楽」「陪臚」、楽器紹介、舞楽「抜頭」
- k. 反響・成果：
 - ・ 第一部の牧野成一プリンストン大学名誉教授による講演には、「新鮮な視点からの分析」「水を媒介にした言葉と音楽の因果関係」「大変興味深い挑戦的な講演」といった好反響が多かった。言語学と音楽の関係を、より分かりやすく講演いただくことが出来た。
 - ・ 雅楽界の最高峰である十二音会による「管絃」「舞楽」、それぞれの質の高さに感動される方が多かった。安齋省吾元宮内庁楽部首席楽長による「楽器紹介」がとても大変わかりやすく、雅楽入門

には最適であったと賞賛される声が多かった。

- ・ さらには、雅楽の継承・普及と、日本の伝統である雅楽を通じた国際文化交流を積極的に展開する「北之台雅楽アンサンブル」の本企画に対する評価も高かった。次回の開催を楽しみにされている方々が多かった。

2. 公益目的事業Ⅱ—海外雅楽公演等の開催

① 海外雅楽公演及びそれに伴う事業

【事業名1：2014年ドナウ・ライン・地中海・青海波公演】

5月15日～28日に開催された本公演は、「浦安の舞」「管絃：海青楽」「陵王」「青海波」の全演目に通じる「波の普遍性」をテーマに管絃・舞楽が各地公演にて紹介された。6都市6会場で開催された本公演は、すべての会場に於いて満席となる大盛況であった。それぞれの公演地において、異文化である日本の伝統文化が理解され、好評を得ることができ、本事業を成功裡に終えることができた。

- a. 事業の趣旨：古えより今日に至る東西交流をテーマとする。千数百年以前の文化をそのまま継承する「保存の日本伝統文化＝雅楽」の世界遺産的価値を西洋音楽レベルの高い各都市において聴覚・視覚を通し、相互理解が進展することを願いとした海外公演とする。
- b. 日時：平成26年5月14日～28日（14泊15日）
- c. 開催場所：4カ国6都市7会場。ウィーン（オーストリア）、ミュンヘン・ブレーメン（ドイツ）、ストラスブール（フランス）、ラバト・カサブランカ（モロッコ）
- d. 対象：一般、学生
- e. 内容：管絃「黄鐘調音取」「海青楽」、舞楽「浦安の舞」「陵王」「青海波」
- f. 受け入れ機関：
 - ・ ウィーン（ウィーン世界博物館、ウィーン大学東洋学研究所）
 - ・ ミュンヘン（ミュンヘン・ルートヴィッヒ・マクシミリアン大学文化学部アジア学科日本センター、オルフ・チェントラム劇場）
 - ・ ストラスブール（日本・アルザス交流150周年記念事業。ストラスブール市、在ストラスブール日本国総領事館）
 - ・ ブレーメン（ユーバーゼー国立民族学博物館）
 - ・ カサブランカ（在カサブランカ日本人有志）
 - ・ ラバト（モロッコ王国文化省、在モロッコ日本国大使館）

g. 助成機関：国際交流基金

h. 各公演の状況：

➤ ウィーン公演（5月16日、17日、於ウィーン国立世界博物館）

- ・ 来場者数：約 270 名
- ・ 主催：ウィーン国立世界博物館、ウィーン大学
- ・ 後援：埴日協会
- ・ 来賓：在オーストリア日本大使館・竹歳誠特命全権大使ご夫妻、セップ・リンハルト・ウィーン大学名誉教授、埴日協会副会長・役員等。
- ・ 反響・成果：欧州の5月は、暦上「氷の聖人」が通り過ぎ天候が荒れると云われ、その通りに両日とも雨天となったが、多くの方にご来場いただいた。初日、竹歳誠大使のご挨拶から公演は始まった。
- ・ 「皆様の奏でるその一音一音は確実に、楽器からではなく、身体全体からほとぼしり出るような迫力でした。舞もすばらしく典雅で、時間が停止した静寂の別世界に引き込まれるようでした。舞台と観客との一体感、臨場感、両方の熱気が渦巻いて天上高く舞い上がるようでした。」（ブランドル・紀子先生）
- ・ 5月16日公演に先立ち、雅楽ワークショップがウィーン大学にて開催。同大学東洋学研究所研究員のブランドル紀子博士が「雅楽の歴史」をテーマに特別講義を実施。笙、箏、龍笛の楽器紹介と小演奏を行った。

➤ ミュンヘン公演（5月19日、於オルフ・チェントラル劇場）

- ・ 来場者数：約 150 名
- ・ 主催：オルフ・チェントラム劇場、ミュンヘン大学
- ・ 後援：在ミュンヘン日本国総領事館、バイエルン独日協会
- ・ 来賓：ミュンヘン大学アジア研究学科日本センター所長マーチン・レナート教授、在ミュンヘン日本総領館・柳秀直総領事、オルフ・センター所長トーマス・ロシュ博士
- ・ 反響・成果：ドイツで最も伝統がある1472年創立のミュンヘン・ルードヴィッヒ・マクシミリアン大学と、究極の名作と言われるオラトリオ「カルミナ・ブラーナ」を作曲した作曲家カール・オルフの研究機関であるオルフ・センターにて開催。昨年、米国コロンビア大学バーバラ・ルーシュ名誉教授より北之台雅楽アンサンブルを紹介されたミュンヘン大学、マーチン・レナート教授が本公演を企画運営。熱気あふれる会場は、舞台上に繰り広げられ

る日本の音楽と舞に魅了された。

➤ストラスブール公演（5月21日、於ストラスブール音楽院）

- ・ 来場者数：約 500 名
- ・ 主催：日本総領事館、アルザス欧州・日本学研究所、ストラスブール市
- ・ 来賓：アルザス・欧州日本学研究所の企画統括責任者ヴィルジニー・フェルモ博士。アメリカ合衆国、リヒテンシュタイン公国、モンテネグロ、バチカン市国、トルコ共和国の総領事または代理の方々等各国要人、*Dernières nouvelles d' Alsace*（アルザス地方の第一紙）新聞社社長、地元ラジオ局の編集局長などマスコミ関係者等。
- ・ 反響・成果：ライン河を境にドイツと隣接するアルザスの首都ストラスブール。今公演は、「日本・アルザス交流 150 周年」記念事業として、在ストラスブール日本国総領事館、ストラスブール市の合同企画となり、多くの観衆が長年にわたる両国の文化交流を祝った。レベルの高い音楽教育に定評があり 1855 年創立という由緒あるストラスブール音楽院のメインコンサートホールが会場となる。
- ・ 広報活動も積極的に行われ、会場はほぼ満席となった。ストラスブール市では初めての雅楽演奏となり、冒頭に長谷川晋日本総領事のご挨拶をいただいた。多くの有識者が来場され、大変好評を博した。

➤ブレーメン公演（5月23日、於ユーバーゼー国立民族学博物館）

- ・ 来場者数：200 名
- ・ 主催：ユーバーゼー民族学博物館
- ・ 反響・成果：同博物館のレナート・野田先生のご尽力により演奏会が実現した。同博物館は欧州でも有数の民族学博物館であり、ユニークな展示で知られている。
- ・ ブレーメンは交通の要衝として、ハンブルグと共に古くから商人の町と栄え、1358 年にハンザ同盟に加盟した古い歴史ある街である。ブレーメンの音楽隊など、童話の里として、世界遺産となる一帯には多くの観光客が集まる。博物館・美術館などの建造物は緑豊かな公園内に立ち並び、その中心にあるユーバーゼー国立民族学博物館のエントランスホールが本公演の会場となった（ユーバーゼーとは、「海を渡った大陸」の意味）。ブレーメンでの雅

楽演奏は、今回が初めてあり、会場には予想を上回る多くの市民200名が来館。世界各大陸の古代からの陳列品とアジアブース前の鳥居に舞台が映えた。

➤カサブランカ公演 (5月25日、岸邸)

- ・ 来場者数：約140名
- ・ 主催：在カサブランカ日本人有志の会
- ・ 後援：JTI
- ・ 来賓：元駐日モロッコ大使夫人、日本モロッコ友好協会モロッコ会長・元エネルギー省大臣ゲラウイ氏、現カサブランカ市長モハメッド・サジッド氏・日本企業社長など、多くの現地有識者
- ・ 反響・成果：大西洋・地中海に面し、モロッコの第1の経済都市として、映画で有名なカサブランカに於いて、永年「日本・モロッコ交流」にて経済のみならず、道路建設など、多大な貢献をされた元三井物産カサブランカ前社長の岸均氏の邸宅にて現地有識者の会より招聘を受け、本公演を開催。財界関係者140名に近い来賓が参集。演奏会後にはレセプションが開催され、王族関係者マダムは伝統衣装の豪華絢爛たるカフタンを纏い、舞楽装束との共通性などの話題から交流が促進された。カサブランカ市長より、記念品贈呈を拝受する。

➤ラバト公演 (5月26日、於モハメド5世国立劇場)

- ・ 来場者数約800名
- ・ 主催：モロッコ王国文化省、在モロッコ日本大使館
- ・ 来賓：ラバト市長はじめ、日・モロッコ友好議連会長、モロッコ預託管理庫総裁、モロッコ漁業公社総裁、マワジン実行委員会副理事長、アラブ・マグレブ連合事務局長、ベネズエラ大使夫妻、ベトナム大使夫妻等、多くの外交団
- ・ 反響・成果：現地文化省の支援を得て、日本大使館が新聞、雑誌、テレビ等メディアを通しての広報活動に力を入れた。公演前には、井口代表夫妻が国営テレビの取材を受けた。
- ・ 日本大使館文化担当の才木書記官より「素晴らしいパフォーマンスで、モロッコの人たちも大変喜んでいただいております。アンケートを見たところ、殆どの方が「とても満足」もしくは「満足」と回答しており、今回の公演には非常に手応えを感じております。また、アンケート結果とは別に当館広報文化班宛てに、有識者や芸術関係者から先日の公演の感想が多く寄せられております。その多くは、「今回の公演は特に詳しい解説があつて非常に良かった。」

耳慣れない音楽や踊りを鑑賞すると時に退屈しがちであるが、解説が付いていると、その歴史的背景や習俗などにも同時に触れることができ、異文化を理解する上では非常に有効な方法である。」とポジティブな感想をいただいております。」との反響をいただいた。

【事業名2：オーストラリアにおける雅楽紹介】

《カウラ桜まつり》

- a. 事業の趣旨：日本とオーストラリア両国の文化交流活動に貢献する。
- b. 日時：平成26年9月27日（土）12時～15時
- c. 開催場所：カウラジャパニーズガーデン
- d. 参加者：一般200名
- e. 内容：笙2管による「越殿楽」「陪臚」の演奏を2回実施
- f. 受け入れ機関：カウラ日本庭園センター
- g. 反響・成果：約10年間継続して参加しており、ジャパニーズガーデンでの雅楽の演奏は、地元の人々への大きな反響を呼んでいる。その反響が、いろいろな催し物での演奏依頼として現われている。

《シドニー夏まつり》

- a. 事業の趣旨：日本とオーストラリア両国の文化交流活動に貢献する。
- b. 日時：平成26年12月13日（土）
- c. 開催場所：タンバロング・パーク（シドニー湾を望む）
- d. 参加者：一般約500名
- e. 内容：舞楽「陵王」20分
- f. 受け入れ機関：
- g. 来賓者：シドニー日本国総領事、シドニー市長代理、シドニー商工会議所会頭、他
- h. 反響・成果：日豪両国の親睦交流を深めるの相応しいイベントであったと、参加に大変好評であった。来年度の参加も期待された。

【事業名3：2016年欧州雅（みやび）公演（事前準備として）】

- a. 事業の趣旨：日本・ベルギー交流150周年を迎える2016年記念事業として、「欧州雅公演」を企画する。2014年度に、現地企画運営者との事前会合、リハーサルを日本において計画する。
- b. 日時：平成26年4月4日～9日（ベルギー舞台芸術家受け入れ）、平成26年11月（ベルギー主催者受け入れ）
- c. 受け入れ人員：ベルギー在住イベントコーディネーター（運営通訳）
- d. 内容・成果：
《平成26年4月》

- ・ 舞台監督をつとめるアド・イゲンス博士をアンサンブル本部に迎え、雅公演の事前リハーサルを実施。シナリオの検討を詳細に行った。

《平成 26 年 11 月》

- ・ 雅公演・ブリュッセル公演スポンサーであるベルギー人実業家ジョルジュ・フォレスト氏の来日に際し、井口理事長、井口副理事長と事前会合を行った。
- ・ 会合を通し、雅楽を始めとした日本の伝統文化保存並びに海外における日本文化紹介活動の意義についてお互いが確認し、日程、会場について具体的に進めていく由、検討された。
- ・ 特に、2016 年は、日本ベルギー国交樹立 150 周年の記念年であり、両国にとって意義深いイベントになることが期待された。
- ・ 来日中、森英介特別顧問及び、安齋省吾先生と面識を得ることが可能となり、フォレスト氏の当該アンサンブルに対する信頼をさらに深めることが出来た。

② 海外における教育機関等における雅楽演奏会

【事業名 4-1：日本資料専門家欧州協会年次大会オープニング演奏会】

- 事業の趣旨：欧州における日本研究に関する資料（図書館資料・情報資源）研究専門家の年次大会において、日本の伝統文化・雅楽を披露し、雅楽への理解を深めていただく。
- 事業名：日本資料専門家欧州協会年次大会オープニング雅楽演奏
- 日時：平成 26 年 9 月 17 日（水）19 時より 1 時間
- 開催場所：ベルギー・ルーヴァン・カトリック大学図書館
- 対象：日本資料専門家欧州協会年次大会に参加する日本・欧米研究者約 80 名
- 内容：舞楽演奏「日本資料専門家欧州協会」オープニングセレモニー時における雅楽演奏を実施。冒頭、ヴァンドゥワラ教授より第一次世界大戦慰霊の趣旨説明があり、井口理事長による「盤渉調・白柱」「蘇莫者破」の龍笛演奏。そののち、ベルギー在住日本人学生吉岡姉妹による舞楽「胡蝶」を紹介した。
- 渡航人員：楽人 1 名、舞人 1 名 計 2 名
- 受け入れ機関：ベルギー・ルーヴァン・カトリック大学（ヴァンドゥワラ教授）
- 反響・成果：
 - ・ 「雅楽を以前に聞かれた人も多く、皆さん大変喜ばれていた」、「日欧間の文化交流に大変意義深い演奏会となった」とヴァンド

ウワラ教授より報告があった。

- ・吉岡姉妹も舞楽を舞う機会を与えられ感謝していた。今後の舞楽練習の励みとなり、現地人材の育成に役立つ事業となった。

【事業名 4-2 : アムステルダム日本人学校雅楽ワークショップ】

- a. 事業の趣旨：海外在住の日本人子女に日本の伝統芸術を紹介し、日本文化の理解の一助とする。
- b. 事業名：アムステルダム日本人学校雅楽ワークショップ
- c. 日時：平成 26 年 9 月 18 日（木）11 時より 1 時間
- d. 開催場所：オランダ・アムステルダム日本人学校体育館
- e. 対象：同校児童・生徒（小学 5 年生から中学 3 年生 80 名）・保護者 50 名、職員 20 名 計 150 名
- f. 内容：冒頭、中島校長先生より挨拶があり、アンサンブルを紹介。井口理事長より、DVDを活用しての雅楽紹介。その後、越殿楽の龍笛と箏の唱歌を披露し、演奏した。井口副理事長による舞楽「胡蝶」の体験を行ったのち、「胡蝶」を演奏。
- g. 渡航人員：楽人 1 名、舞人 1 名 計 2 名
- h. 受け入れ機関：アムステルダム日本人学校
- i. 反響・成果：
 - ・中島校長先生は、かねてより海外に住む子供たちに、本当の日本文化に触れさせたいと強い思いを持たれており、今回の雅楽紹介を心待ちにされていた。
 - ・中島校長先生からは、「日本の素晴らしい伝統芸術を子供たちに紹介いただき、ありがとうございます。翌日の校長室での中学生たちとの昼食会の際にも、話題は雅楽で持ちきりでした。」と報告された。

3. 公益目的事業Ⅲ—教育機関等における雅楽紹介

① 雅楽演奏会

- a. 事業の趣旨：
- b. 事業名：明治大学父母交流会雅楽演奏会
- c. 日時：平成 26 年 11 月 30 日（日）
- d. 場所：明治大学リバティール・ホール
- e. 参加人数：明治大学学生及び保護者 約 500 名
- f. 内容：楽器紹介、管絃「太食調音取」「傾盃楽急」「抜頭」、舞楽「青海波」
- g. 受け入れ機関：明治大学父母交流会

- h. 反響・成果：会場のリバティール・ホールには多数の来場者があり、多くの学生イベントなどが演じられたが、今回もその最後を締めくくる演目として当アンサンブルが出演した。演目は楽器紹介から始まり、管絃「太食調音取」「傾盃楽急」「抜頭」、舞楽「青海波」を奏し好評を博した。来年度も、同じ演目で開催されることになっている。

② 雅楽ワークショップ

- a. 事業の趣旨：「金沢大学 Princeton in Ishikawa」は、石川県が実施する夏季短期日本留学プログラムである。プリンストン大学生を始めとした米国学生が約 50 名参加する交流会の場で、「雅楽」を海外の学生に紹介し、日本の伝統文化の理解を深める機会とする。
- b. 事業名：金沢大学 Princeton in Ishikawa 雅楽講演
- c. 日時：平成 26 年 7 月 8 日（火）
- d. 場所：金沢大学
- e. 参加者：米国プリンストン大学、ハーバード大学、コロンビア大学留学生 約 50 名
- f. 内容：雅楽紹介（プロジェクター使用）、龍笛・鞆鼓等の楽器紹介。
- g. 受け入れ機関：金沢大学 Princeton in Ishikawa 事務局（窓口：牧野成一教授）
- h. 反響・成果：参加学生が日本の伝統文化である雅楽に身近に触れることが出来た。初めての体験でもあり、大変興味深いとほとんどの学生より反響が寄せられた。

③ 雅楽体験教室（千葉県 プロに学ぼう「器楽クリニック」委託事業）

- a. 事業の趣旨：雅楽を通して青少年の情操教育に寄与する。
- b. 事業名：千葉県 プロに学ぼう「器楽クリニック」委託事業
- c. 日時：平成 26 年 9 月より平成 27 年 1 月
- d. 場所：千葉県内小中学校 7 校
- e. 内容：管絃「楽器解説」「平調音取」「越殿楽」
舞楽「陵王」の鑑賞
楽器・舞楽体験
- f. 参加人員：総数 1,209 名
- g. 期日・会場：
 - ①平成 26 年 10 月 16 日（木）市川市立菅野小学校
 - ②平成 26 年 10 月 28 日（火）野田市立みずき小学校

- ③平成 26 年 11 月 7 日（金）松戸市立和名ヶ谷小学校
- ④平成 26 年 11 月 11 日（火）横芝光町立横芝小学校
- ⑤平成 26 年 12 月 10 日（水）白子町市立関小学校
- ⑥平成 27 年 1 月 13 日（火）船橋市立三山小学校
- ⑦平成 27 年 1 月 22 日（木）浦安市立入船中学校

h. 各校の状況：

【市川市立菅野小学校】

- ・ 日時：平成 26 年 10 月 16 日（木）13：40～15：15
- ・ 対象：6 年生 84 名
- ・ 反響等：
- ・ 日本の伝統のある雅楽に対する生徒の認識が深まり、楽器体験も適当な人数で楽器に触れることができ良かった。
- ・ 県の教育委員会からの視察があり、クリニックの内容に満足されていた。

【野田市立みずき小学校】

- ・ 日時：平成 26 年 10 月 28 日(火) 13：40～15：15
- ・ 対象：小学生 5・6 年生 計 200 名
- ・ 反響等：
- ・ 人数が多かったが、鑑賞面では問題なくできた。また舞楽の出手を全員で練習してから舞楽鑑賞ができたので良かった。
- ・ 楽器体験は、参加人数が多かったため、唱歌のコーナーを増やして対応したが、生徒全員が体験するには難しかった。

【松戸市立和名ヶ谷小学校】

- ・ 日時：平成 26 年 11 月 7 日（金）13：45～15：00
- ・ 対象：6 年生 約 100 名（父兄参観日にあたり保護者も参加）
- ・ 反響等：
- ・ 児童たちは、実際の雅楽の演奏には驚きの連続で、演奏に引き込まれるような思いでした。舞楽では、実際にその時代にいるような感覚になった子供たちもいたようです。
- ・ 体験学習では、沢山の楽器を体験できるとは思っていなかったもので、子供たちは大騒ぎでした。今演奏していた楽器をその場で体験できるようなことは、普段できることではなく、貴重な体験となりました。

【横芝光町立横芝小学校】

- ・ 日時：平成 26 年 11 月 11 日(火) 13：45～15：25

- ・ 対象：全学年 430 名、体験教室 5・6 年生 約 150 名
- ・ 反響等：
- ・ 雅楽の演奏を実際に鑑賞し、とても貴重な時間をいただきました。子供たちの反応は、普段の音楽の授業では西洋の音楽や楽器に触れることが多く、雅楽の楽器の音色や種類に興味を持ったようです。
- ・ 普段の集会の時には、入場から賑やかなことが多いのですが、雅楽の舞台のきらびやかさや舞楽の衣装等に圧倒されていました。
- ・ 5, 6 年生の楽器体験は、大人数で、短時間の体験でしたが、とても丁寧に教えてくださり、生徒にも担任にも大切な体験になったという感想が多く寄せられました。
- ・ 体験する生徒を絞るか、楽器数を増やすことができれば、体験学習の内容が充実できたのではないかと思います。
- ・ 今回のクリニックを通して、本物を見ることに勝る教育はないと改めて感じました。
- ・ 生徒からは、楽器の体験を通して、今も昔も音楽の楽しさは変わらないものだと感じ、学んだことを生かして今後も頑張りたいとの意見が寄せられました。

【白子町立関小学校】

- ・ 日時：平成 26 年 12 月 10 日(木) 13：30～15：15
- ・ 対象：全学年 136 名、楽器体験 4～6 年生 64 名
- ・ 反響等：
- ・ 普段接する機会の少ない「雅楽」を間近で鑑賞したり、演奏の体験をしたりすることができ、児童も職員も貴重な時間を過ごさせていただきました。
- ・ 児童は、西洋楽器とは違う楽器の音色やリズムに関心を持つとともに、演奏の様子や美しい動きの舞を食い入るように見ました。
- ・ 体験学習では、実際に楽器に触れ、それぞれの特徴を肌で感じることができました。
- ・ 資料を見ているだけでは分からない、楽器の扱い方や重さ、息の使い方等を知り、児童は日本の伝統音楽への関心をさらに深めていました。

【船橋市立三山小学校】

- ・ 日時：平成 27 年 1 月 13 日(火) 13：50～15：20

- ・ 対象：5・6年生 約200名、体験教室6年生 105名
- ・ 反響等：(教員より)
- ・ 5,6年生の子供たちにとって、未知の音楽経験でしたが、予想以上に興味、関心が深まり、感動を覚えることができたようです。教員として、今後伝統芸能、音楽への知識、理解を深めなければならないと改めて痛感し、努力していこうと考えております。
- ・ 5年生が、雅楽鑑賞のみで終わり、楽器体験ができなかったため、楽器に対する質問が多く寄せられた。特に笙を火鉢の上でクルクル回している動作が気になった児童が多かったようです。
- ・ 三山小学校5年生は、全県で200校の中から選ばれて雅楽を体験できることにとても喜びを感じており、感想文を読んでも生徒の感動の想いが伝わってきました。
- ・ 楽器体験では、なかなか音が出なかったようですが、音が出るまで教えてもらったことが子供たちの喜びになっていました。

【浦安市立入船中学校】

- ・ 日時：平成27年1月22日(木) 10:45~12:35
- ・ 対象：1年生49名、特殊学級1~3年生10名 合計59名
- ・ 反響等：
- ・ 生徒の生き生きとした表情、楽器を手に背筋をまっすぐにして演奏をする姿が印象的であった。いつもの柔道場が立派な舞台となり、目の前で演奏を鑑賞できた感動は生徒にとって忘れられない貴重な経験となりました。(校長先生)
- ・ 生徒は、楽器の体験なかで、それぞれの楽器の特徴を理解することができた。しかし、音が出るように指導をいただいたが、なかなか音が出なかった。音が出るということは、コツを掴んで自分の位置を見つけることが大切であることを理解した生徒もいた。
- ・ 舞楽のゆっくりとした舞を体験し、優雅な動きをすることの難しさを理解した。体の軸を曲げることなく、重心を移動させることが、舞の美しさを出すことを体験できたことが良かった。
- ・ 雅楽の楽器が、自然にある植物からつくられていることを知り、千年続けられてきたのは、日本の自然と共に続いてきたことを理解された。

④ 雅楽研修会

平成 26 年度は実施なし。

4. 管理・広報部門の充実（法人活動）

① 広報活動

- a. Web、情報誌、パンフレット、チラシを媒体とした PR 活動の推進
- b. 賛助会員募集（個人会員）の推進
- c. 情報誌（季刊）の作成（賛助会員配布用）
- d. アンサンブル公演カレンダーの製作

② 事務機能の充実

- a. 定款による業務遂行のための内部充実
- b. 経理業務の委託

以 上